

北村賞

北村賞は、我が国における公園緑地行政のパイオニアとして、長年、公園緑地に関する理論の研究と行政実務の指導に尽くされ、また日本公園緑地協会の実質的創設者として協会の育成と発展に大きく貢献された北村徳太郎先生の業績を記念し、設けられました。この賞は、北村先生が昭和39年5月8日にご逝去されたあと、昭和43年3月、社団法人日本公園緑地協会において「北村賞及び同基金に関する規程」及び「北村賞実施要領」を定め、公園緑地等の行政または調査、研究、計画、設計、管理・運営の理論等に全国的視点から著しい功績のあった方に贈呈するものです。

第48回北村賞受賞者（敬称略・五十音順）

いしなが ひろあき

石永 裕明

現 一般社団法人日本公園施設業協会理事（企業認定委員長）

株式会社岡部参与

受賞理由

氏は、自社のISO9001認証取得や関連資格取得などの経験、知識を活かし、（一社）日本公園施設業協会の遊具等の安全性と品質確保に向けたISO9001がベースの「遊具の品質マネジメントシステム」を導入した会員企業の認定審査を、平成16年の企画段階から現在に至るまで中心となり活動し、企業に求める項目、評価等の規格設計から制度の立ち上げ、運用、さらに安全性に係る要求項目等を強化した「公園施設製品の品質と安全性確保に関するマネジメントシステム」への改定（H28）に携わり、現在も当該制度に関する企業の監査や指導助言、認定等を担っている。

この企業認定制度は、各企業の公園施設製品の安全性と品質を継続的に向上させるとともに、この制度による有資格者の確保や公園施設製品の認定表示マークが地方公共団体や利用者等に広く認知されることによって都市公園等の安心な利用に大きく寄与しており、この制度の企画、構築、運営を主導した氏の功績は極めて大きい。

おおはし けんいち

大橋 謙一

元 国土交通省関東地方整備局国営昭和記念公園事務所長

現 西武造園株式会社顧問

受賞理由

氏は、昭和53年に建設省入省後、平成25年に退職するまでの35年間にわたり、国土交通省、都市再生機構等において、公園緑地行政の発展に尽力された。この間、3つの国営公園事務所の所長を務め、特に国営昭和記念公園では、みどりの文化ゾーンをオープンさせ、体験、交流、情報発信機能を充実させるとともに、昭和30年代を再現したこもれびの里ではオープンに先立ちボランティアの育成及びNPO法人化に筋道をたてられた。さらに、都市再生機構時代には、特殊法人改革の中、国営公園の特定公園施設の管理等の業務完了等に向けた関係機関との諸調整に尽力するとともに、防災公園街区整備事業において、ほぼ毎年、新たな防災公園を完成させ、各地の防災性向上にも貢献した。退官後は、技術検定試験の業務を通じた人材育成や、その後も民間企業や公園緑地関係団体での人材育成に携わり続けるなど、貢献は大きい。

すずき まこと

鈴木 誠

元 東京農業大学教授

現 東京農業大学グリーンアカデミー校長

東京農業大学名誉教授

受賞理由

氏は、長きにわたり東京農業大学で教育・研究活動に従事し、造園科学科の教授などを歴任し、現在も東京農業大学グリーンアカデミー等で幅広く造園に関する教育・普及啓発を実施している。行政の計画・文化財保護についても行政委員を務め、国土の景観形成や文化財保護、都市の緑化政策に携わっている。また、海外に存在する500以上の日本庭園について、国内で初めて体系的な文献調査を行い、日本庭園の国際的な位置づけの確立に貢献している。また、日本造園学会の調査研究報告である「海外の日本庭園」のとりまとめにおいても大きく貢献している。加えて、北米日本庭園協会（NAJGA）に日本人で初めて表彰されるなど、長年にわたる日本庭園分野への貢献が国外でも認められている。

上記の通り日本の庭園技術の国際的地位の確立と理解の促進に多大な貢献を果たしている。

ふなびき としあき

舟引 敏明

元 国土交通省大臣官房審議官

現 一般財団法人公園財団理事長

受賞理由

氏は、昭和54年に建設省入省後、平成27年に退職するまでの37年間にわたり、国土交通省等において公園緑地行政の発展に尽力された。平成16年の「景観緑三法」の際の景観法制定や都市公園法の立体公園制度創設、また平成20年の歴まち法制定や平成23年の都市公園法改正で技術的基準等の条例委任等を実現させた。その後も、都市公園における民との連携を加速化させるP-PFI制度の創設につながった「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」を立ち上げ、新たなステージに向け舵を切った。東日本大震災に際しては、各種技術的指針の発出や交付金による復興支援、さらには復興の象徴となる国営追悼・記念施設の設置に道筋をつけるなど、公園緑地の防災分野においても貢献した。また、個人でも単著で「制度論考」シリーズを発刊し、退官後は大学教授、関係法人理事長として造園界の発展と後進の指導に貢献している。

ほそかわ たくみ

細川 卓巳

元 東京都建設局公園計画担当部長

現 公益財団法人東京都公園協会公園事業部緑と水の市民カレッジ臨時職員

受賞理由

氏は、昭和60年に入都以来、公園緑地の計画策定から整備、管理運営に至るまで、東京都、特別区、政策連携団体など様々な立場で多方面にわたり活躍された。特に計画分野では、公園整備を計画的に推進する「都市計画公園・緑地の整備方針」や、民有地の緑の計画的な保全を目的とした「緑確保の総合的な方針」など、都市緑地法に位置付けられた緑の広域計画の先駆事例ともなる計画の策定・改定のほか、都市農地や屋敷林のある景観を継承する「農の風景育成地区制度」の創設に尽力された。また、日本造園学会においては、造園技術を応用した実務的な報告や、実務を支える基礎技術の研究報告等を発信する「造園技術報告集」について、技術報告編集委員会委員長として第10号のとりまとめを先導し刊行された。このように幅広く、時代の要請に応える先進的な取組を推進し、東京ならびに我が国の公園緑地の発展に寄与されたその功績は多大である。

(役職は、令和8年3月31日現在)